

1	審議会名	第10回 塩田地域協議会
2	日 時	平成24年1月24日 午後1時30分から午後3時43分まで
3	会 場	上田市塩田公民館小ホール
4	出席者	伊藤委員、大口委員、岡村委員、甲田委員、清水委員、関田委員、竹下委員、玉木委員、中村委員、西沢委員、丸山委員、峯村委員、山極委員、若林委員
5	市側出席者	神林塩田地域自治センター長、海瀬地域振興政策幹、志摩センター長補佐
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者 0人	記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成24年1月26日

協 議 事 項 等

1 開 会（神林自治センター長）

2 地域協議会長あいさつ

協議会委員の最長任期6年が終了期を迎えており、まとめの時期になってきた。地域公共交通に関する調査や「困りごと」アンケート調査の集計及び集約の山場を迎えている。総合的な成果を現していきたい。

3 協議

(1) 地域の課題（地域交通）について

地域公共交通に関する調査結果について、地域交通委員会から説明

地域公共交通の存続に向けて、住民負担を考えるべきとの住民意見があった。別所線電車の存続については、市から利用者の安全対策に対する補助として、平成22～24年度に総額約3億7,300万円の補助金が支出されているが、補助期間が終了してからどうするのか意見が出た。住民も存続に協力するので補助してもらいたいとする意見もあった。地域公共交通は、全体的に交通弱者に対する「足」の確保や学生などに対する対応を必要としている。意見は、全体的には存続を希望しており、住民負担もやむなしの声もある。デマンド交通（利用者が手を挙げたらどこでも乗れる）を希望する声のほか、路線バスのルートを知らない人が多いとする意見もあった。Aコープのお買い物バスの利用は多く、一般市民も乗車を希望する意見もあった。別所線電車存続期成同盟会はあるが、別所線再生支援協議会や別所線の将来を考える会などと連携した取組みを模索する意見もあった。真田地域では、公共交通利用促進協議会のような取組みがされており、重要な取組みではないかとする声がある。県内的には、私鉄の電車を廃止する方向があるが、別所線電車は残して欲しいとする声大きい。

(補足説明)

今回の調査は、色々な意見を聞くことができてよかったことと、世論を喚起する重要な意味があったと思う。調査結果からは、地域協議会の考え方にほぼ賛同が得られたと思う。

(委員) 調査結果を受けて、路線バスのルートやバス停の位置などを周知することは、すぐに対応できることなので早急に対応したほうがよいと思う。今は心配しなくも、将来不安になることもあるので先を見据えた対応が必要である、別所温泉の宿泊客からは、宿泊料金の10,000円のほかに上田駅からの往復の電車賃を出してもらうことは厳しい。

(委員) Aコープのお買い物バスの利用者は多く、一般住民の利用の声があるが組合員のためのものであり一般住民の要望は厳しい。

(会長) JAのセンター長の意見としては、若干の融通は利けるとしていたので多くの人の店舗利用に結び付けてもらいたい。

(委員) 取組みの順序が逆である。委員の意見に対して協議会としての議論がなかったことを言っ

ているのである。

- (委員) 11月の協議会の内容に不満があった。協議会としての考え方について協議して欲しかったと思う。
- (委員) 先に頂いた市全体の路線図は見づらいので改善を希望するほか、電車は新幹線との接続がよくないので検討して欲しい。名古屋では600円、京都では500円の一日券がある。塩田になじむかどうか分からないが、エリア切符のようなものは出来ないものか。エコ車両を活用して観光客を呼び込んではどうか。
- (委員) 市は、意見書に対する考え方として「乗って残す」運動を言っているが、市の意見に答えるような議論が必要である。
- (会長) 各自治会へ協力依頼をしていくこととなる。
- (委員) 協議会としての取組みや対応を確認すべきである。
- (委員) 協議会としての対応が重要である。協議会では全て対応できないので、どういうふうに活かしていくのが重要である。
- (委員) 調査結果は、各自治会によってバラツキがあり正直バスや電車はどうでもよい。地域では、シニアカー（一人乗りの車）が通行する道路の整備を希望している。調査結果を各自治会へフィードバックしてもらいたい。
- (会長) 地域協議会の活動を広報しているが、住民に理解してもらうことは難しく、「協議会だより」で各家庭へ周知を徹底していきたい。
- (委員) 地域の交通体系については、住民に周知させる必要があり、住民への情報の徹底により別所線電車の利用に結び付けたいものである。
- (委員) 住民への周知は難しいが、札所めぐりにはシャトルバスなどは便利で、いろいろな場で周知していきたい。期限を過ぎて残った回数券の利用方法なども検討する必要がある。切符には、その後の利用方法の表示も必要で、複合的な価値を生み出させる工夫が必要であると思う。
- (委員) 別所線電車の回数券の利用と併せて、パーク＆ライドの推進を希望する。自家用車と電車を併せての利用に向けた取組みが重要である。
- (委員) 別所線電車の利用については、パーク＆ライドの推進のほか、別所線電車を活用したイベントによる集客や外国人をターゲットにすることも必要である。バスについては、利用者層に合わせた運行形態にすればよいと思う。
- (委員) 公共交通の利用については、企業を含めた利用について全体の調整や協力が必要である。バスを巡回させながら、電車を残す対策を検討してはどうか。
- (会長) 地域の公共交通については、それぞれ存続を希望する意見が多く、別所線電車を中心とする存続のほかAコープのお買い物バスについて検討したい。平成24年度を最終とする補助金については、市長から乗客が減るようであれば考えざるを得ないと言われている。喫緊の課題であるので、早急に委員会で検討をお願いしてその結果を協議会で確認する。また、他の団体とも連携を図りながら協議会で検討したい。
- (委員) 地域の公共交通全体について協議する場として、仮称「利用促進協議会」をつくりたい。
- (委員) この間の協議では、仮称「利用促進協議会」をつくるとしてきたので、どのようなものにするのかについて協議すべきで塩田には絶対必要である。
- (会長) 仮称「利用促進協議会」をつくることとして、組織等の原案は地域交通委員会において作製いただき次回に発表してもらいます。
- (委員) 近々にJ Aの組合員懇談会が自治会単位に開催されるので、出席のうえ意見を発言してもらいたい。
- (会長) 地域交通委員会で作製したマップを、イラスト化してもらうよう市へ交渉したい。地域の公共交通全体については、3月初めにまとめてもらい意見書として市へ提出したい。

(2) その他

上田市総合計画地域まちづくり方針に関連する地域課題について

各団体による地域課題の回答に基づく地域課題については、別途協議のうえ委員の意見を集約していきたい。

4 その他（当面に日程）

2月協議会（わがまち事例発表） 2月 9日（木） 13:30 塩田公民館大ホール

3月協議会 3月 8日（木） 13:30 塩田公民館小ホール

3月協議会（わがまち事業審査） 3月 21日（水） 13:30 塩田公民館大ホール

5 閉会

* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、 1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。

* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。